

収録日：2025年3月18日

直滑降ストリーム特別企画「県議と知事の紅茶懇談」は、群馬県議会議員をお招きし、親しみやすく身近なテーマでお話をするシリーズです。

それぞれの県議の人柄や趣味の話など、幅広く話をしています。議会でのやりとりだけではなかなか見えない部分も、お伝えできると考えています。

第1回目のゲストは、自民党の丹羽あゆみ県議です。番組では、幼少期の祖母との思い出や趣味の料理、好きなドラマなどについて、お話を伺いました。丹羽県議の、明るくポジティブなお人柄や、女性がそれぞれの立場で輝ける社会を目指す強い思いが伝わる内容となっています。



第1回 丹羽 あゆみ 県議（自由民主党）

山本一太群馬県知事（以下、知事）
群馬県知事の山本一太です。久々に直滑降ストリームのシリーズを始めたいと思います。

地方自治は二代表制で、選挙で選ばれた知事と、選挙で選ばれた県議会、この2つが車の両輪と言われています。

知事である私は、毎週の記者会見があったり、いろいろなメディアで発信したり、皆さんに私の“人となり”や政策を知っていただく機会があります。一方で、地方自治のもう1人の主役であ

る県議会、それぞれの県議が、どのような“人となり”なのか、どのようなパーソナリティを持っているのかということが意外と知られてないということがわかりました。

これを踏まえて、直滑降ストリームでは、全ての会派の県議会議員の皆さんと、「県議と知事の紅茶懇談」というシリーズを始めさせていただきたいと思っています。

記念すべき第1回目ということで、自民党の丹羽あゆみ県議に

お願いしたいと思います。

丹羽あゆみ県議（以下、県議） よろしくお願ひします。

👤プロフィール

知事 まず、丹羽さんのプロフィールからご紹介したいと思います。

選挙区はみどり市、会派は自由民主党、当選回数1回で、バリバリのルーキーですね。出身は京都、群馬県の桐生市で育ったということで。趣味は、料理、カラオケ、ゴルフ、リンパマッサージ通いと

ということです。

当生い立ち

知事 まずは、どんな幼少期を過ごされたのでしょうか。

県議 出生が京都と書いたように、母が京都の生まれ育ちで、父が桐生で、織物の関係で知り合っで結婚しました。父は織物業を祖父と営んでいました。いろいろあって、飲食業やったり、古着屋さんやったり、ちょっと破天荒な父です（笑）。

知事 ポヘミアンな感じで（笑）。

県議 そうです。素敵な父です。

母も一緒に仕事していたのですが、私は妹と2人姉妹で、ほとんど祖母に育てられました。何をするにも妹と一緒に。祖母が本当に厳しくて、食べ終わったお茶碗に、ほうじ茶が注がれて、「それでちゃんと1粒残さず、綺麗に、食器はもう流すだけにしなさい」というような祖母でした。門限は17時半とか、何から何まで本当に厳しく育てられました。

だから、本当に品行方正で、小学校では学級委員やらなきゃいけないというような。

知事 本当にしっかりした方だったんですね。

県議 すごく厳しかったですね。高校ぐらいまではそんな感じで、学生の本分は勉強みたいな、そう教えられて育ってきました。

知事 幼稚園も、小学校も優等生という感じですか。

県議 ザ・優等生でした。

知事 なるほど、すごく面白いです。今の丹羽さんの性格、すごく

オープンマインドで明るく前向きな、そういう兆候が出てきたのは中学生ぐらいですか。

県議 学級委員で人の面倒を見るなどして、責任感がだいが育まれました。女子高だったんですが、学級委員で、体育祭とかでも旗を持って「私について来い」というような、それがずっと続いていますね。みんなを引っ張っていく、わたしも胸襟を開くから、みんなも素直に何でも相談して、というような。それは今に繋がっているかもしれないです。

知事 何となく、今の丹羽さんを見ていると、その雰囲気があるなと思います。昔から面倒見が良く、みんなを引っ張って行って、姉御肌で、みたいなところですよ。

その後のキャリアはどんな感じでしたか。

県議 幼少期はそのような感じで、それにずっと引っ張られているような気もするんです。

大学時代、私は法政大学社会学部で、マスコミで有名なゼミに入っていました。それで大学を卒業して、しゃべる仕事を始めました。

知事 しゃべる仕事を始めたのは、そもそも、しゃべる機会が多かったりとか、話すのが得意だったりという理由ですか。

県議 大学に入って、アナウンススクールに入ってからです。それで4年間ずっと、アナウンサーを目指してやっていました。その後、しゃべる仕事、ラジオであったり、ケーブルテレビであったりをしていて、そこからビジネスにも興

味が湧いてきました。自分にできる仕事って一体何があるのだろうと考えたときに、やれることはしゃべることしかないわけで、それをもとに、結婚式とかイベントとかの司会をやりました。しゃべる仕事が多くなってきた中で、独立しました。

知事 もともと大学時代にアナウンサーを目指していたっていうこともあり、しゃべる仕事から起業したわけですね。

起業しようというバイタリティーは、おばあちゃんとの子ども時代の経験や、そもそも姉御肌で独立心も強かったんですね。

県議 やっぱおばあちゃんが家をまわしていたことが私にも染みついて、困っている女性みんなが稼げるようになるためには、私が起業して、みんなで稼げる仕組みを作るしかない、と思ったかもしれないですね。

知事 なるほど。しかも、だんだん大きくしていききましたよね。初めはそこまで大きな所帯ではなかったけれど、人も増やしたり、職種も増やしたりして。それはどうでしたか。大変だったでしょうね。

県議 自分はしゃべることができけれど、いろいろな女性と関わっていくうちに、しゃべることが得意ではない人の方が多くて。人の興味は、美容であったり、掃除であったりそれぞれで、その当時は1年間に1個、業務内容を増やしていこうという感じでした。

当趣味

知事 今ハマっていること、趣味をお伺いしたいと思います。

趣味は、料理、カラオケ、ゴルフ、リンパマッサージ通いということですが、いかがでしょうか。

県議 ずっとハマっているのは毛ガニで、毛ガニがあればどこでも行くみたいな(笑)。群馬は海なし県ですけど、だからこそ、全国の毛ガニを取り寄せたり、食べに行ったりというのが好きです。

私は料理が好きで、冷蔵庫の中にあるもので、いかに自分の料理を作るかを考えています。料理は、頭を働かせて、要領のよさを見せられる場所だと思っています。

知事 今おっしゃったように、どうやって組み合わせたらいいか、どういう特徴を出そうかと頭の中で組み立てながら、しかも、丹羽県議は頭の回転も早いから、一番効率的な早い方法を見つけながらやっていると思う。非常にクリエイティブな作業ですよ。

毛ガニは何で好きなんですか。
県議 毛ガニは、カニみそもそうですが、希少価値が高いですよ。めったに食べられないと思うと、いかにそれを年中食べられるかというのがありますし。大学の卒業旅行で北海道に行って、生まれて初めて毛ガニを食べたんです。その時のおいしさが、「何だこれは」みたいな(笑)。

🍷好きなエンタメ

知事 群馬県はこれからデジタル・クリエイティブ産業を作っていく、エンタメの聖地を目指していくのですが、丹羽さんの好きな

エンタメ、映画でも漫画でも歌でもいいのですが、何かありますか。

県議 私は中学生の頃からドラマが好きで。

知事 倍速で見ているという噂を聞きましたが。

県議 1.75倍速で(笑)。それを家にいる、寝る前の時間とかで、毎クール20くらいのドラマを見ていて。

知事 すごいですね、20って。

県議 ドラマを見ないと、ついていけなくなるような気がして、絶対毎クール見るようにしています。

ドラマって、その時のトレンドの要素が詰まっているんですよ。恋愛ものであったり、政治ものであったり…絶対毎クール何とか見るように、1.75倍速で。

知事 篠原涼子さんのドラマで、2017年ぐらいに政治を扱った…

県議 『民衆の敵』ですね。

知事 これ、すごく好きだということ。

県議 篠原涼子さんは桐生の出身で、年が同じで。篠原涼子さんが、そのドラマでは市長選挙に出る役で。

知事 普通の主婦が、市議会議員になるんですよ。

県議 そうです。その中で、地元でいろいろな問題が起こるわけですよ。それで、汚職に絡むような悪い人たちを目の当たりにして、真正面から正々堂々と、「あなたが悪いだろう」みたいに、気持ちいいくらいにやるのが、「何かカッコいいな」というのがあって。そのときは、全然政治家になろう

とか思っていなかったんですが。
知事 何話か見た覚えがあります。結構人生に苦勞して、「世の中、これおかしいじゃないか」ということで、市議会議員になって、最後は衆議院議員になりますよね。この篠原涼子さんのアプローチ、おかしいものにはおかしいと言う姿勢は、すごく丹羽さんに重なりますよね。

県議 今、政治家になる人いない、議員になる人がいない、と言われるんですが、私でも出られたのだから、あなたでも出られるよ、という姿は私の議員生活の中で見せていきたいと思っています。

知事 それは女性が、政治家になる、政治の世界に入るというハードルを低くしますよね。そうすると、能力があっても逡巡している人たちが、丹羽さんみたいにできると思ってくれればいいですよ。

県議 その場に入ってから覚えることが99%で、何もなくても、ゼロでもいいと思っているので。
知事 情熱があれば、しっかりそこで一生懸命勉強しますよね。

それと、好きなミュージシャンがいるということ。

県議 私は、選挙のときもですが、自分の気分を上げたいときはSuperflyの『Beautiful』という曲を聴きます。あとは、C&Kの『traveling carnival』という曲があるのですが、「歩みは止めない」という歌詞があり、私の歌みたいなのがして。

知事 丹羽“あゆみ”だからね。
県議 やっぱり音楽って、車の中

で聞くとか、家の中で聞くとかいくつかありますが、その曲を聞くと一気に気分が変わる手段じゃないですか。だから、気分を上げたいときには、その2曲は外さず聞くようにしています。

知事 この2つが好きだということに、丹羽さんのポジティブさが表れていますよね。両方とも困難に立ち向かって、乗り越えて、しっかり輝く存在になろうというような曲で。

今日は丹羽さんのコアに触れたような感じがしました。

県議 やりすぎたかもしれない(笑)。

〆群馬県の魅力 30秒PR —

知事 丹羽さんから群馬県の魅力を30秒でPRしていただきたいと思います。

県議 私は東京の大学に行っていたのですが、その時もしょっちゅう群馬には帰ってきていました。それはやっぱり人との繋がりがいいなと思っていて、街でばったり「誰々ちゃん」とか、何中学校だったと言うと、誰々先輩がいたとか、そういう人との繋がり、安心感があるのが群馬だと思っています。

あと群馬はプライドが高い人も多くて、プライドが高いということは、高い志を持った飲食店のオーナーシェフも多いので、おいしいところがいっぱいあります。群馬にぜひ来てもらいたいです！

知事 ありがとうございます。
先ほど、自分が政治の世界に入

って県議になって、別に女性にも敷居の高い世界ではなく、やる気があって問題意識があれば、立派に仕事ができるということを示したいとおっしゃいましたが、県議になってこれだけはやりたいということがあれば教えてください。

〆県議としてやりたいこと —

県議 先ほども少し触れた、女性にアドバンテージを少し持たせた政策というのを進めたいです。

なぜかという、やはり女性が、家事・育児参加もそうかもしれないけれど、それができるかできないかというのは、言いすぎかもしれないですが、女性に給料を上乗せするくらいでないと進まないと思っています。

一般質問でも毎回最初に女性の質問させてもらっていますが、今後もそういったような質問を続けていきたいと思っています。

知事 女性にインセンティブを与えるような政策を作っていくってことですね。

あと、趣味の欄を見ていたら、健康オタクと書いてありました。

県議 健康オタクなので、サプリメントは本当にこだわっています。

でも、一番の健康法は、何でもいから笑っているみたいな、人の話を聞くとときも、いつも目尻下げて口角上げてという感じで。

知事 免疫を上げるって言われますよね。

県議 あとは、人のガードを外すというか、いつも笑っているね、

みたいな。それは、最高の褒め言葉だと思っていて、いつも笑うようにしています。

知事 今日は改めて、今まで見えなかった丹羽さんの本質というか、コアに触れたような気持ちです。

私もよく健康法聞かれますが、太古の昔から体を温めるということが医学の基本ですよ。だから冷たいものを飲みません。

それから、老化する最大の原因は酸化なので、ご飯を食べたらすぐ歩きます。そうすると、血糖値の上昇が緩やかになるんですよ。

本当にありがとうございます。これからも大活躍を期待しています。

県議 ありがとうございます。

知事 皆さん、丹羽さんは本当にただ者ではありませんよ。今日、改めてわかりました。生体エネルギーが半端じゃないから。

ということで、「県議と知事の紅茶懇談」、第1回目の記念すべきゲストは、丹羽あゆみ県議でした。ありがとうございます。

県議 ありがとうございます。